

実行委員会 2022年7月現在		後援	
【委員長】 中條 武志 中央大学 理工学部 ビジネスデータサイエンス学科 教授		●経済産業省	●公益社団法人 経済同友会
【委員】 相見 健司 公益財団法人 日本生産性本部 サービス産業生産性協議会 課長		●金融庁	●一般社団法人 国際標準化協議会
池田 あゆみ 公益社団法人 自動車技術会 規格グループ 次長		●厚生労働省	●国立研究開発法人 産業技術総合研究所
井上 善海 法政大学大学院 政策創造研究科 教授		●国土交通省	●JIS登録認証機関協議会
井上 博貴 住友化学株式会社 レスポンシブルケア部(品質保証) 担当部長		●消費者庁	●国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
木澤 正 高圧ガス保安協会 ISO審査センター 調査役		●総務省	●独立行政法人 製品評価技術基盤機構
高橋 徹 公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 元理事		●農林水産省	●中央労働災害防止協会
越川 哲哉 一般社団法人 日本鉄鋼連盟 標準化センター事務局 事務局長			●独立行政法人 統計センター
富岡 伸一 サントリーマーケティング&コマース株式会社 品質保証推進部 技術顧問			●株式会社 日刊工業新聞社
中野 奈津美 株式会社高島屋 美術担当顧問			●一般財団法人 日本科学技術連盟
星川 安之 公益財団法人 共用品推進機構 専務理事・事務局長			●日本クオリティ協議会
前川 徹 東京通信大学 情報マネジメント学部 教授			●一般社団法人 日本経済団体連合会
村川 賢司 村川技術士事務所 所長			●日本商工会議所
山本 宏史 TOTO株式会社 技術本部 生産技術推進部 参与			●公益財団法人 日本生産性本部
【企画協力】 国立研究開発法人 産業技術総合研究所			●一般社団法人 日本品質管理学会
国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構			●一般社団法人 品質工学学会
			●モノづくり日本会議

協賛			
●一般財団法人 エンジニアリング協会	●一般社団法人 電気学会	●一般社団法人 日本ゴム工業会	●一般社団法人 日本塗料工業会
●一般財団法人 化学物質評価研究機構	●一般社団法人 電子情報技術産業協会	●公益社団法人 日本材料学会	●日本内燃機関連合会
●化成工業協会	●一般社団法人 電子情報通信学会	●一般社団法人 日本産業機械工業会	●一般社団法人 日本ねじ研究協会
●紙バルブ技術協会	●一般社団法人 電池工業会	●一般社団法人 日本産業車両協会	●一般財団法人 日本燃焼機器検査協会
●一般社団法人 火力原子力発電技術協会	●一般社団法人 日本アルミニウム協会	●一般財団法人 日本情報経済社会推進協会	●一般社団法人 日本配線システム工業会
●公益財団法人 共用品推進機構	●一般財団法人 日本ウエザリングテストセンター	●一般社団法人 日本照明工業会	●一般社団法人 日本バルブ工業会
●一般社団法人 軽金属製品協会	●一般社団法人 日本運搬車両機器協会	●公益社団法人 日本食品衛生学会	●一般社団法人 日本物流システム機器協会
●一般財団法人 建材試験センター	●一般社団法人 日本エネルギー学会	●公益社団法人 日本食品衛生協会	●日本プラスチック工業連盟
●高圧ガス保安協会	●公益社団法人 日本オペレーション・リサーチ学会	●一般社団法人 日本伸銅協会	●一般財団法人 日本フルードパワー工業会
●一般社団法人 産業環境管理協会	●一般社団法人 日本化学工業協会	●公益社団法人 日本水道協会	●一般財団法人 日本文化用品安全試験所
●JIS懇話会	●一般社団法人 日本環境測定分析協会	●公益社団法人 日本設計工学学会	●一般社団法人 日本ヘアリング工業会
●公益社団法人 自動車技術会	●一般社団法人 日本機械学会	●公益社団法人 日本騒音制御工学学会	●公益社団法人 日本保安用品協会
●公益社団法人 消費者関連専門家会議	●日本金属継手協会	●一般社団法人 日本塑性加工学会	●一般社団法人 日本ボイラ協会
●一般社団法人 情報科学技術協会	●一般社団法人 日本金属熱処理工業会	●日本暖房機器工業会	●一般社団法人 日本防錆技術協会
●一般社団法人 情報処理学会	●一般社団法人 日本クレーン協会	●一般社団法人 日本鉄鋼協会	●公益社団法人 日本包装技術協会
●一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会	●公益社団法人 日本経営工学学会	●一般社団法人 日本鉄鋼連盟	●一般社団法人 日本溶接協会
●ステンレス協会	●一般社団法人 日本計量機器工業連合会	●一般社団法人 日本鉄道車輛工業会	●一般社団法人 日本冷凍空調工業会
●公益社団法人 精密工学学会	●一般社団法人 日本計量振興協会	●一般社団法人 日本電気協会	●公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会
●一般社団法人 セーフティグローバル推進機構	●日本水晶デバイス工業会	●一般社団法人 日本電気計測器工業会	●一般社団法人 日本ロボット工業会
●公益社団法人 石油学会	●公益社団法人 日本下水道協会	●一般社団法人 日本電機工業会	●一般財団法人 パイオインダストリー協会
●石油連盟	●一般社団法人 日本建材・住宅設備産業協会	●一般社団法人 日本電気制御機器工業会	●一般財団法人 光産業技術振興協会
●一般社団法人 セメント協会	●一般社団法人 日本建設業連合会	●一般社団法人 電気設備学会	●一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会
●全国生コンクリート工業組合連合会	●一般社団法人 日本航空宇宙工業会	●一般社団法人 日本電線工業会	●一般社団法人 プロジェクトマネジメント学会
●公益財団法人 鉄道総合技術研究所	●一般社団法人 日本工作機械工業会	●一般社団法人 日本時計協会	●一般財団法人 マイクロマシンセンター
●一般財団法人 電気安全環境研究所	●一般社団法人 日本工作機器工業会	●一般社団法人 日本トライボロジー学会	

産業標準化推進月間事業


標準化と品質管理

全国大会 2023

一般申込	
11,000円(税込)	
維持会員の方	
ご加入1口につき1名様	無料 ※8月上旬頃にご招待のご案内をいたします。
口数以上のお申込	5,500円(税込) / 1名様

※有料のお申込の場合は、請求書をお送りしますので、請求書に記載の日にちまでにお振込ください。尚、欠席された場合にも原則として返金はいたしませんので、予めご了承ください。

標準化と品質管理 地区大会 2023 スケジュール	
北海道地区大会(札幌)	10月20日(金) 北海道経済センター
東北地区大会(仙台)	10月31日(火) 仙台市中小企業活性化センター
中部地区大会(名古屋)	10月13日(金) 今池ガスビル
近畿地区大会(大阪)	10月18日(水) ドーンセンター
中国地区大会(広島)	10月16日(月) 広島県民文化センター
九州地区大会(福岡)	10月10日(火) 福岡国際会議場

維持会員のご案内	
維持会員制度は、当協会の事業目的に対してご理解いただける方に、私どもが取組む標準化推進活動をご支援いただくための制度です。当協会は、会員の皆さまとのコミュニケーションを深め、会員の皆さまから、より一層のご支援が得られるような活動に取り組んでまいります。皆さまの維持会員制度へのご参加を、お待ち申し上げております。	詳しくは JSA Webdeskを ご覧ください。
【会費】1口につき年額2万円(不課税) 【特典】●特別割引にて規格をご購入いただけます。 ●当協会主催の品質管理及び標準化に関する講習会・セミナーに特別割引にてご参加いただけます。 ●当協会主催の「標準化と品質管理全国/地区大会」に1口につき1名様を無料でご招待いたします。 ●JSA Webdesk 維持会員専用サービスをご利用いただけます。	

お申込はWEBで **SQ大会 2023** 検索  <https://www.jsa.or.jp/>

ウェルビーイング

共創で実現するWell-beingな社会

—新時代に求められる品質と標準化—

標準化と品質管理全国大会は、幅広い分野から多彩な講師をお招きし、毎年10月に開催しております。
本年度は「共創で実現するWell-beingな社会」をテーマに、
各組織の標準や品質に関わる取組みや最新動向、戦略などを幅広くご紹介いたします。
皆さまの業務にお役に立つ講演をご用意いたしました。是非ともご参加くださいますようお願い申し上げます。

10月4日(水) 9:50~16:10
都市センターホテル および オンライン

産業標準化事業表彰表彰式及び特別シンポジウム(仮)
10月17日(火) / 都市センターホテル

会場
都市センターホテル 東京都千代田区平河町2-4-1
アクセス
●東京メトロ 有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町」駅
4番・5番出口より徒歩約4分、9b番出口より徒歩約3分
●東京メトロ 有楽町線「麹町」駅 半蔵門方面1番出口より徒歩約4分
●東京メトロ 丸ノ内線・銀座線「赤坂見附」駅 D出口より徒歩約8分
公共交通機関でのご来場にご協力をお願いいたします。

お申し込みされた方は、後日、全国大会の講演および地区大会のJIS登録認証機関協議会の、講演アーカイブ動画を無料でご視聴いただけます。

標準化と品質管理 全国大会 2023 プログラム

【聴講対象】

入門 入門・学生・一般

経営層 経営層

管理職層 管理職層

専門家 専門家(品質管理・設計・開発・営業)

ご注意

- オンライン配信にはZoomを利用します。
- 講演時間・講演タイトル・講演者・会場は都合により変更する場合があります。
- 最新のプログラムは、当会Webサイト(https://www.jsa.or.jp/)をご参照ください。
- 各講演は事前予約制ではありません。当日、ご自由に講演をお選びいただくことができます。会場で聴講の場合は、会場によって満員となる可能性もございますので、あらかじめご了承ください。
- お申し込みされた方は、後日、全国大会の講演および地区大会のJIS登録認証機関協議会の講演アーカイブ動画を無料で視聴いただけます。
- 報文集は紙での提供はいたしません。必要に応じてダウンロード・印刷してご持参ください。**

9:50 - 10:00

会場 I

主催者挨拶 開会宣言

10:00 - 10:50

講演 1	経営層
標準、政策、標準化戦略	

(仮)「日本型標準加速化モデル」の実現に向けて

経済産業省
産業技術環境局基準認証政策課長
渡辺 真幸

グローバル市場の変化を踏まえ、日本の標準化活動も、経営戦略と一体的かつ能動的に取り組むことが重要となっており、そのために官民の各主体がどのような経営上/政策上の工夫を講じていくべきか考える必要があります。そのカギとなる、今日的な標準化の効果・機能について、本年6月に日本産業標準調査会基本政策部会が取りまとめた「日本型標準加速化モデル」を用いながらご紹介いたします。

講演 2	管理職層
品質、マネジメントシステム、価値創造	

新時代に求められる真・品質経営モデル (JIS Q 9005:2023)の提唱
～顧客・社会への価値創造を通じた、経営・事業の持続的成長の実現～

東海大学
情報通信学部 情報通信学科 教授
金子 雅明

2023年2月に「JIS Q 9005:2023 品質マネジメントシステム-持続的成長の指針」が発行されました。この指針は、顧客・社会への価値提供、事業環境への適切な対応、そしてこれらを可能とする組織能力を構築したマネジメントシステムモデルを提唱しています。本講演では、この指針に込めた意図と内容を概観し、あらゆる企業・組織が価値提供による持続的成長をいかに実現すればよいかについて解説いたします。

講演 3	経営層
イノベーションマネジメント	

グローバルなイノベーションの加速とイノベーション・マネジメントシステム(IMS)の潮流

アーカイブ配信なし

一般社団法人 Japan Innovation Network
代表理事
紺野 登

コロナウイルスのパンデミックや地政学リスクなど、企業を取り巻く環境が激変する昨今のイノベーションの潮流に触れながら、まずはイノベーションの定義について共通認識を持ち、その後どういった経緯でイノベーション・マネジメントシステム(IMS)の考え方ができたのか、そもそもIMSの国際規格であるISO 56000シリーズとは何なのか、なぜIMSが企業にとって有効なツールになり得るのか等についてお話しします。

11:10 - 12:00

講演 4	経営層
品質、環境、脱炭素	

脱炭素社会の一步は、身近な羽毛から

河田フェザー株式会社
SDGs推進室 室長
黒田 健

貴重な国民共通の資源である羽毛素材とその機能は、脱炭素社会とどのような関係性にあり、どのような影響を与えているのでしょうか。原料調達を起点に現在から今後の状況までをご説明いたします。また、未来に良質な羽毛をつなぐため、そして次世代の健康的な生活の維持と二酸化炭素抑制に貢献していくためには、企業や国民一人ひとりの小さな行動が重要です。国際環境SBT(科学的根拠に基づくCO2排出削減目標)認定を取得した弊社の具体的な取り組みや経験についてご紹介いたします。

講演 5	専門家
品質、食品衛生	

CVS(コンビニエンスストア)における食品安全の取り組み

株式会社ローソン
事業サポート本部 品質管理部
マネジャー
天坊 伸二郎

消費者の品質に対する要求が厳しい現代において、一定品質で多くのアイテムを大量に製造する現場の工程管理が重要となります。食中毒未然防止の観点も含め、取引先様である製造工場とLAWSONは協働で食品安全に取り組んでいます。また、店舗においても、HACCP制度化にともなう衛生管理計画書作成等、フランチャイザーとして店舗支援、衛生管理・事故防止をどのように進めているか、その取り組みについてご説明いたします。

講演 6	経営層
経営、経営術、商品開発	

社員を巻き込み、変化を創り出す中小企業のひらがな経営

アーカイブ配信なし

株式会社吉村
代表取締役社長
橋本 久美子

ペットボトルとコーヒーの家庭内消費によりマーケットが縮小する茶業界をあえてパートナーとして選び、日本茶需要創造のために、知恵を集め、挑戦し、新商品・新市場を創出する株式会社吉村。経営理念を掲げるだけでなく、経営のツールとして使い倒すことで、社員が自ら変化を起こしていく組織に変わりつつあります。中小企業であることに誇りとワクワクを感じる経営実践についてご紹介いたします。

13:00 - 13:50

講演 7	入門
エネルギー問題、環境	

日本のエネルギー事情と国際情勢

株式会社
ユニバーサルエネルギー研究所
代表取締役社長
金田 武司

エネルギー資源の乏しい日本のエネルギー戦略について考えます。日本の歴史形成とエネルギー問題との関わり、さらに、2022年2月のロシアのウクライナ侵攻を契機とした世界のエネルギー再編による日本への影響と取り組むべき課題について検証します。エネルギー政策が日本の経済再生に対していかに重要かをみなさまと考えてみたいと思います。

講演 8	経営層
認証取得、障がい者雇用、多様性	

ノーマライゼーションと生産性の両立
～障がい者主体のモノづくりの現場がJIS認証で得たもの～

サンアクアTOTO株式会社
(TOTO株式会社 特例子会社)
代表取締役社長
田中 江美

1993年、福岡県北九州市・TOTOの共同出資で設立したTOTO特例子会社です。社員の6割は障がい者です。「ノーマライゼーション」を推進し、障がいのある人となりが共に働くことが当たり前職場では、個々の障がいに応じて自らが改善を継続的に、TOTOの安全・品質基準を満たしたモノづくりに貢献しています。特例子会社ならではのJIS認証までの苦労と、認証で得られた成果と価値を動画を交えてご紹介いたします。

講演 9	専門家
環境、プラスチック問題、国際標準化	

海洋生分解性プラスチックの社会実装に向けた生分解評価法のISO標準化

国立研究開発法人
産業技術総合研究所
企画本部 知財・標準化推進部
標準化推進室 標準化オフィサー
国岡 正雄

海洋プラスチックゴミ問題の解決に、3R(再使用、使用量削減、リサイクル)推進が重要ですが、期せずして自然環境中に漏出するプラスチックには、生分解性プラスチックの利用が有効です。これらの製品に関わるISO規格は、専門委員会TC61(プラスチック)、分科委員会SC14(環境側面)、WG2(生分解度)で審議、発行されています。環境問題解決に向けて、ISO規格の要求事項による認証システムの重要性をお伝えいたします。

14:10 - 15:00

講演 10	入門
エシカル、ESG、SDGs	

エシカルな経営と消費が生む未来社会
～企業が信頼を得るエシカル基準とは?～

株式会社アートダイナミクス
代表取締役社長
生駒 芳子

ESG投資や消費者志向経営が重要視される今、環境や人、動物に配慮する「エシカル経営」を目指すことは必須であるとされています。企業がエシカル経営を目指し、消費者がエシカル消費を進めることで、エシカル・サーキュレーションの好循環が社会に生まれ、より健全で豊かな未来社会を創造することができます。(一社)日本エシカル推進協議会(JEI)では、その目安となる「JEIエシカル基準」を策定しました。本講演では、その概要をご紹介します。

講演 11	経営層
品質、価値創造	

TQMのリストラクチャリング
-JSQC-Std 11-001 TQMの指針-

合資会社 安藤技術事務所
代表
安藤 之裕

TQMは、各組織の実情に合わせて多様化し、また、事業環境変化に対応し進化してきました。一方で、その多様性により理解し難くもなったり、基本からかけ離れて弊害を生み出している例も散見されるようになってしまいました。そのような状況を受け、基本に立ち返りながら新しい視点を加えた「TQMの指針」が昨年(一社)日本品質管理学会より発行されました。今回はその概要をご紹介します。

講演 12	管理職層
標準、モノづくり、シェアNo.1の取り組み	

1/1(いちぶんのいち)の視点のものづくり

フットマーク株式会社
代表取締役社長
三瓶 芳

フットマークは、赤ちゃんのおむつカバーで創業、発想の転換から日本初の学童用水泳帽を開発しました。絶えず新しい商品を生み出す企業文化が強みで、特に「1/1(いちぶんのいち)の視点」という考え方を大切にしています。ユーザーなど現場の声を丁寧に聴くことで、お客様が本当に必要としている製品や、お客様がまだ気づいていない商品をカタチにしています。本講演はその事例や挑戦していることなどについてご紹介いたします。

15:20 - 16:10

講演 13	入門
新技術、自動運転、国際標準化	

スマートシティ・自動運転社会に果たす道路インフラの役割について

一般財団法人
道路新産業開発機構
ITS・新道路創生本部
西部 陽右

スマートシティや自動運転の社会実装が間近に迫りつつあるなか、スマートシティや自動運転に果たす道路インフラの役割について、ISOでの国際標準化に関する議論の状況も交えつつご紹介いたします。

講演 14	管理職層
品質不正防止	

品質不正を防ぐ
-「テクニカルレポート 品質不正防止」の活用-

JSQCテクニカルレポート「品質不正防止」
原案作成委員会 委員長
株式会社テクノファ
取締役会長
平林 良人

TQM(総合品質管理)を正しく構築・運用している組織からは、近年の一連の品質不正は起きようのない事象と思われがちです。しかし、TQM実践企業でも不正は発生し得ます。システムやルールを構築し、かつ経営トップ自らが現場と一体となって魂のごもったTQMを実践することで、全員の行動様式を正しく導くことが肝要です。品質不正防止TRを活用し、多くの組織がTQMに取り組み、品質不正を防止する方法をお伝えいたします。

講演 15	管理職層
障がい者雇用、多様性、標準	

障がい者350名超と共に働く職場のさまざまな工夫

NTTクラリティ株式会社
総務人事部
サステナビリティ推進室 担当課長
中野 志保

私が所属するNTTクラリティは、NTTのグループ会社の一つで、障がいのある社員が多く所属する特例子会社です。2005年の創業時、3名の障がい者から始まり、多種多様な課題が生じる都度解決への工夫を重ね、現在は350名を超えるさまざまな障がい特性の社員が働いています。今回の講演では、クラリティが18年間取り組んできた「仕事を共に行う工夫」についてエピソードを交えて、ご紹介いたします。

昼休憩(60分)

オンライン
中継

会場 II

オンライン

オンライン
中継

会場 III